

吉野材の可能性を広げる様々な取り組みに積極的にチャレンジ

吉野中央木材株式会社 奈良県吉野町

■積極的なチャレンジで吉野材の可能性を広げる

1946年創業の老舗製材会社『吉野中央木材株式会社』は、「木のある暮らしの価値を再認識してもらいたい」と語る石橋^{てらいち}輝一専務（40歳）を中心に、吉野材の可能性を広げる様々な取り組みに積極的にチャレンジし情報発信を続けている。

■吉野材の強みが活かせる木桶を全国・世界に

吉野林業はかつて「樽丸^{たるまる}林業」とも呼ばれ、江戸時代から酒樽用の材として重宝されたことからその材を作るための山づくりが発展。吉野材の木桶は酒以外にも醤油や味噌などの醸造に最適とされていた。しかし戦後、手入れの容易さなどからホーローやステンレス、FRP製の桶が台頭し、木桶を製造できる製造所も数えるほどに減少した。

だがここ10年程は、風味や香りなど伝統的な木桶ならではの良さが見直されてきており、石橋専務は美吉野醸造（吉野町）とともに2010年に『吉野杉の木桶復活プロジェクト』を立ち上げた。

また同時期に起こってきた小豆島のヤマロク醤油や堺のウッドワーク（藤井製桶所）などの木桶復活に向けた取り組みとも連携してネットワークを形成。石橋専務も素材の選び方などの勉強を深め、木桶用の良質な杉材を探す際には全国から声がかかるようになった。

海外では「木桶で作った」というこだわりが好評で木桶製醤油の引き合いも多い。イタリアのクラフトビールメーカーがヤマロク醤油製（材は吉野中央木材が提供）の木桶で醸造した地ビール『Xyauyù Kioke（シャオユ木桶）』など、海外でも徐々に木桶が注目されており、今後は「海外需要への対応も考えている」（石橋専務）という。

■世界的建築家を通じた吉野材の魅力発信

石橋専務は、2017年にAirbnbが世界で初めて建てた宿泊施設『吉野杉の家』（吉野町）の運営

管理を受託する『Re:吉野と暮らす会』の代表も務める。地元民約30人がホストとなり運営するこの施設の宿泊者は4割が外国人。世界的に著名な建築家の長谷川豪氏の設計であることも関心を集める理由らしく、訪日外国人の全国建築巡礼旅行のコースに組み込まれたりしているとのことだ。『吉野杉の家』をきっかけに海外でも“日本の優良な木材がある地域が吉野”と伝わり始めている感触がある」と石橋専務は手ごたえを語る。

また、建築界のノーベル賞とも言われるプリツカー賞を2017年に受賞したスペインの建築家チーム『RCR アーキテクト』が吉野に3日間滞在し、吉野の植林文化の奥深さや木材の質の高さにインスピレーションを受け、スペインで構想中の広大な研究複合施設『ラ・ヴィラ』を構成する建物のひとつ『紙のパビリオン』に吉野町の木材を用いる予定で、石橋専務も協力している。

■吉野の製材業や林業全体で生き残りを目指す

「様々な取り組みを通じて吉野の木材に付加価値をつけることが目標」と語る石橋専務。「縁で生まれた機会を活かしてできることを一つ一つ確実にこなし、自社だけでなく吉野の製材業や林業全体で生き残っていききたい」という。（吉村謙一）



（左から）吉野中央木材の吉野杉材を用いてヤマロク醤油が自社の木桶を製造しているところ／吉野川河畔に建つ『吉野杉の家』外観



石橋輝一 専務

吉野中央木材株式会社

〒639-3118
奈良県吉野郡吉野町橋屋 57
TEL: 0746-32-2181
FAX: 0746-32-2863
URL: <http://www.homarewood.co.jp/>